

1 背景と現状

- 本市は境川水系、猿渡川水系の下流域に位置し、市域及び水系上流での**降雨により、市内二級河川の水位が上昇し、支流である準用河川や排水路の逆流や排水不良を引き起こす恐れ**がある。
- このため河川の越水や溢水、内水氾濫等への備えとして、気象警報発令前の初動体制確保が重要であることから、第1次非常配備前の降雨に対応する職員を配置すべく**出動基準（※）を4項目設け、準備配備体制として課職員の半数6名程を出動させる体制**を取っている。
※①流域市町村での大雨②洪水警報の発令時③時間当たり降雨量④境川の設定水位超過時など
- 各種気象サイト情報から**市民はその時点での水位情報は確認できる。**

3 実現したい未来

- **各職員が取得するデータ（気象や水位等）の手間と情報格差を無くし、迅速かつ確実な職員招集方法を構築したい**
 - 1年後：準備配備出動基準となる各情報（複数サイトでの流域情報等）をプッシュ型で一括発信し、課職員が同じ情報を、同じ時間に入手し確認できる
 - 年後：準備配備出動基準となるデータの蓄積を基にAIが分析・判断できる仕組みを作り、出動すべき時期を予見・助言する/指示を自動発信させる市民に対して水位予想を提供できる

2 解決したい課題

- 気象や水位情報は、各自のスマートフォンを使い随時入手しやすい環境になっており、気象警報はプッシュ型で自動的に通知される
- 一方で二級河川の水位情報はプル型で、それぞれの職員が愛知県の「川の防災情報」等複数サイトで流域情報を確認し出動を判断している。このため夜間や外出時等に情報入手が遅れたり、漏らしたりすることがある。
- 出動は、各人の分析と判断に委ねられ、個人毎の情報の入手状況によってその判断に差異が生じるため、課内グループLINE (LoGoチャット) で情報共有を図っている。
- 急激な水位上昇に対して**市民はその時点での水位情報しか確認できない。**

4 想定する解決策や技術

- Webスクレイピング技術とAIを用いた気象/河川水位等の各種気象サイト情報の一元収集と一括発信
 - AIを活用した水位予測や出動判断システム
- ※河川へのライブカメラや水位計の新規設置は想定せず、既存システム（刈谷市防災気象情報）や気象情報サイトを活用したソリューションを想定する